

## 平成23年度 活動概要と進捗状況

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
調査委員会活動（JK A補助事業）	研究開発機能の海外新興経済国移転検討委員会（松井）	<p>1. 目的、内容 研究開発による国際競争力強化の一環でグローバル環境下での新たな研究開発体制構築に向けた包括的な検討を行う。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 10社 11名 学識委員 4名 本検討委員会を親委員会とし、下に5専門委員会を設置する。 ①研究開発マネジメント専門委員会 ②技術系人材・教育専門委員会 ③産学連携検討専門委員会 ④環境技術調査専門委員会 ⑤検査・分析専門委員会</p>	委員会	<p>①6/10 検討委員会を開催し、今年度調査内容について議論した。調査の論点について意見交換した。具体的な調査は専門委員会（マネジメント専門委員会、人材教育専門委員会、産学連携検討専門委員会、環境技術専門委員会、検査分析専門委員会）にて実施することとした。 ②2/8 検討委員会を開催した。各専門委員会の実施した調査結果をまとめ、今年度調査の論点整理とまとめを行った。</p>
			国内訪問調査・ヒアリング調査	<p>強み技術の海外流出について韓国への中小企業移転（9/21 ブランディアビジネスコンサルティング、9/29 第五電子工業）、研究開発向け先端基盤技術（11/16 日本電子）、海外企業のグローバル戦略と日本の位置付け（1/13 AMATジャパン）について調査を実施。</p>
			招待講演	11/23 韓国研究開発サービス業協会
	研究開発マネジメント専門委員会（松井）	<p>1. 目的、調査方針 競争力強化に向け、研究開発のマネジメントのあり方のヒントを探ることを目的とし、以下の点を中心に調査を行う。 ①研究開発による市場創造 ②急変下での研究テーマ設定（エネルギーマネジメントの将来など）</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 16社 17名 学識委員 1名 委員長：(株)竹中工務店 技術研究所 大野企画部長</p>	準備委員会	①4/14
			委員会	①7/15、②9/8、③1/27
			国内訪問調査・ヒアリング調査	<p>9/8 日立製作所 9/21 日産自動車 10/19 東レ 12/8 鹿島技術研究所 1/17 日東電工 1/17 ナガオカ 1/18 オムロン</p>
			講演会	<p>7/15「エネルギーシステムインテグレーション スマートグリッドがもたらすもの」 東京大学 生産研 エネルギー工学連携研究センター 特任教授 荻本和彦氏 1/27「1対1共同研究を超える産学連携モデル」 東京大学 産学連携本部 教授 太田与洋氏</p>
			アンケート調査	<p>研究開発を実施している大手企業約1,000社を対象に実態調査を実施。 〔主な調査項目〕 ① 研究開発環境の変化、② 国際競争力、③ 研究開発における連携戦略、④ 海外研究開発拠点、⑤ 研究開発人材の能力</p>

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
調査委員会活動（JK A補助事業） つづき	技術系人材・教育専門委員会 (小林)	1. 目的、調査方針 研究開発人材の問題のうち、以下の点を中心に調査を行う。 ①研究開発人材の育成 ②モチベーション向上策 ③研究開発者のキャリアパス ④ダイバーシティの視点より、技術系人材のグローバル・マネジメント、技術系人材の育成・活用ポートフォリオをテーマとする。  2. 委員会構成 企業委員 10社 11名 学識委員 1名 委員長：(株)三菱総合研究所 石塚主席研究員 副委員長：(株)リコー 金子シニアマネジメント	準備委員会	4月22日
			委員会	①7/4 ②8/9 ③9/28 ④11/15 ⑤2/17
			国内訪問調査	9/28 日立製作所 2/17 東レ
			海外訪問調査	11/22～30 中国 リコーソフト研究所（北京）、北京松下普天通信設備、松下電器研究開発（中国）、NEDO北京事務所、UNIDO北京事務所、清華大学、北京航空大学、JETRO広州事務所、三菱日連証券（香港）
			講演会	7/4「東芝における研究・開発と技術系人材の採用・育成」 東芝 技術企画室 企画担当 グループ長 佐田豊氏 11/15「在日留学生の就職事情に関する意見交換会」 フィールディング大学院 アンナ ビンスキー氏
	産学連携検討専門委員会 (松井)	1. 目的、調査方針 産学連携における現状や問題を把握することを目的とし、特に以下の点について調査を行う。 ①産学連携による新技術実用化のスキームづくり ②研究開発海外展開における産学連携  2. 委員会構成 企業委員 5社 5名 学識委員 3名 委員長：古河電工(株) 橋マネージャー 副委員長：(株)日立製作所 竹村主任技師	準備委員会	①4/19
			委員会	①7/19、②9/16、③10/13
			国内訪問調査	12/22 BASFジャパン
			海外訪問調査	2/1～2/3 中国訪問調査 精華大学、北京郵電大学、松下電器研究開発有限公司
			講演会	9/16「大学発ベンチャーによる産学連携」 日刊工業新聞社 山本編集委員 10/13「振興国市場戦略の最前線 ～BRICs調査と事業戦略論～」 東京大学 経済学研究科 天野准教授
	環境技術調査専門委員会 (小林)	1. 目的、調査方針 環境問題の内、エネルギー・バランス、資源・環境規制、水問題などについて、下記の調査をする。 ①環境ビジネスの動向及び実施例 ②環境技術政策 ③未来における環境社会・環境産業のあり方  2. 委員会構成 企業委員 10社 11名 委員長：清水建設(株) 山崎上席マネージャ	準備委員会	①4/12
			委員会	①5/26 ②6/22 ③7/20 ④9/14 ⑤10/12 ⑥11/9 ⑦12/20 ⑧1/18 ⑨2/16
講演会			6/22「Smarter Planetの目指す世界」 日本IBM 執行役員 岩野和生氏 7/20「アジアにおける環境改善の取り組み」 清水建設 技術研究所 上席マネージャ 山崎雄介氏 9/14「エネルギーモデルに基づく将来需給展望と震災影響評価」 三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部 主席研究員 園山実氏 10/14「ベストエネルギーミックスを目指す政策設計とその課題について」 慶應義塾大学 先端研究センター 特任教授 保井俊之氏 11/9「国内外の環境ビジネス市場の概況2011年度版」 三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部 主任研究員 高島由布子氏 12/20「世界、そして我が国の環境関連動向の概況」 三菱総合研究所 先進ビジネス推進本部 本部長 主席研究員 吉田直樹氏 1/18「Umicore社の希少金属回収ビジネス及びスウェーデンにおける環境都市の取組みについて」 清水建設 技術研究所 上席マネージャ 山崎雄介氏	

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
（JKA補助事業） 調査委員会活動 つづき	検査・分析専門委員会 (前佛)	<p>1. 目的、活動方針 検査・分析業が直面している課題解決を目的に、各ワーキンググループ（WG）が中心となり、以下の活動を行う。 ①検査・分析業に関する実態調査（WG-1） ②適合性評価の動向調査（WG-2） ③公益法人、公的機関などとの交流・調査及び講演会（WG-3）</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 16社 16名 委員長：(株)日産アーク 山口部長 副委員長：住友金属テクノロジー(株) 岸本専任部長 副委員長：(株)東レリサーチセンター 島津部長</p>	準備委員会	①4/12
			委員会	①6/14 ②7/12 ③9/14 ④10/4 ⑤11/8 ⑥12/6 ⑦1/17 ⑧2/24 ⑨3/13（予定）
			アンケート調査	検査・分析業の実態について、これまでの調査をベースに、海外展開の状況、震災の影響、技能伝承の視点なども含めアンケート調査を実施した。
			国内訪問調査	10/27 財務省関税中央分析所、(財)電力中央研究所 訪問 11/16 (独)日本貿易振興機構（JETRO）訪問 12/8 九州電力（株）八丁原地熱発電所、杉乃井ホテル地熱発電所訪問
			講演会	11/8「麻薬や覚せい剤の分析」 東京大学薬学部 牧野由紀子氏
（JKA補助事業） 標準化委員会活動	機械工業に係わるナノレベル分析技術の国際標準検討委員会 (松井)	<p>1. 目的、内容 将来急成長が期待される技術領域では、国際標準規格づくりに先手を打つことが重要である。中でもナノテクノロジー分野では、製品品質を高精度に保証するための分析技術の標準化が不可欠であり、標準試料と標準分析手法を検討する。</p> <p>2. 体制 検討委員会を組織し検討。 委員長 産業技術総合研究所 材料分析研究室 小林室長 委員 学識経験者 1名、企業委員 15名</p>	実施内容	ナノテクノロジーの先端分析の国際標準規格を目指して、ナノレベル分析の標準試料と標準分析手法を検討した。 産業技術総合研究所・標準化担当グループと連携し、候補となる試料を作製して国内有力分析機関で評価、検討することにより、競争力強化につながる国際標準規格の候補となる分析試料と分析手順（TEMによる多層膜厚さ計測手法、高誘電体膜の精密定量方法）を作成した。
			評価試験など	これまでの検討（平成21、22年度 機械システム振興協会事業）においてさらに共通試料の分析・計測が必要と判断されるもの（TEM分析、SIMS分析、ナノ微粒子分析）について実施。
			委員会	6/24 第1回委員会 7/26 第2回委員会 10/27 第3回委員会 12/13 第4回委員会 2/8 第5回委員会
（JKA補助事業） 国際交流活動	BOP技術ミッション検討委員会 (前佛)	<p>1. 目的、内容 巨大潜在市場として期待されるBOP(Base of the Economic Pyramid)ビジネスに関して、マレーシア等ASEAN地域に技術ミッションを派遣し、再生可能エネルギー、水処理、食品加工など我が国の優れた技術分野について、技術紹介や意見交換を通じて、ASEAN地域でのBOPビジネスの可能性や技術開発拠点としての可能性を調査する。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 3社 4名</p>	委員会	①9/15 ②10/24 ③11/29 ④1/21
			海外訪問調査	11月5日～12日 マレーシアの現地訪問調査（商工会議所・工業会、研究機関、日系企業などへ訪問した）
			講演会	9/15「マレーシアにおける製造業及びサービス業の促進におけるマレーシア工業開発庁の役割」 マレーシア工業開発庁 東京事務所長 MOHAMAD HASHIM氏

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
国際交流事業 補助事業活動 つづき (JK A)	国際交流事業 検討委員会 (清水)	1. 目的、内容 我が国と世界の国々との産業技術国際交流の輪を広げるとともに、欧米等の先進国の研究開発マネジメント機関との相互交流を深め、地球環境問題、高齢化社会対応等の世界的課題に対する産業技術人材の国際ネットワーク構築を推進する。  2. 委員会構成 横浜国立大学 近藤教授 企業委員 4社 4名	委員会  海外訪問調査  国際交流会	①9/22、②11/4、③12/9  ①米国IRI、欧州EIRMA等の研究開発マネジメント機関、および研究開発実施機関・企業（TOTAL、AIRLIQUID、PARK、SEAGATE）を訪問。 ②欧州EIRMAと連携についてMOUを締結予定。  テーマ 「グローバル時代の研究開発の国際分業と連携」 日時：2月10日 場所：中央大学駿河記念館 ・開会に際して 横浜国立大学 近藤教授 ・基調講演 経産省 産業技術環境局 上田国際室長 ・講演 シンガポール科学技術研究所、フラウンホーファ研究機構、東レリサーチセンター、日本IBM、NEDO
	研究開発サービス業振興委員会 (松井)	1. 目的、内容 我が国の研究開発活性化のため研究開発を受託・支援する企業の振興を図ることを目的とし、将来の協会事業への展開を視野に入れて実施する。 新しい研究開発サービス企業の継続調査、フォーラム開催、受発注活発化の課題調査等を実施する。  2. 委員会構成 委員長：大阪ガス 永田顧問 委員：5名	委員会	①7/29 海外企業の取り組み例としてBASFジャパンを訪問調査を行った。つづいて委員会進め方を検討した。グローバル環境下での我が国の新しい研究開発体制について分析を行い、活発なオープンイノベーション活用によるわが国研究開発の活性化に向けたフォーラム開催を目指すことを活動方針とすることとした。 ②メガトレンド委員会と連携し、強み技術の海外流出について韓国への中小企業移転（9/21 ブランディアビジネスコンサルティング、9/29 第五電子工業）、研究開発向け先端基盤技術について（11/16 日本電子）、海外企業から見た日本の位置付け（1/13 AMATジャパン）について調査を実施した。 ③韓国研究開発サービス業協会より招待講演の依頼を受け、11/23、研究開発サービスを活用したNewオープンイノベーションについて講演を行った。
	高齢社会調査委員会 (松井)	1. 目的、内容 今後、我が国が世界に先駆けて対応することとなる高齢化社会に向け、新たなビジネス創出のヒントとなる技術とサービス提供の視点で研究開発課題について調査する。国などのプロジェクトへの展開も検討する。  2. 委員会構成 委員長：日立製作所 研究開発本部 技術戦略室 新谷部長（予定）（オブザーバー 東大 高齢社会総合研究機構長 鎌田教授） 委員：7名	委員会  国内訪問調査  講演会	①8/31、②9/13、③12/20  高齢社会を対象とした技術とサービスに注目し以下の訪問調査を実施した。 10/13 産総研オープンラボ 10/26 ひたちなか 12/8 岐阜「くるる」  12/20 「NPOで地域ビジネス～地域で生かそう！あなたの力～」 NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 代表理事 久保律子氏

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
独自調査活動 つづき	目利きコミュニティ委員会 (小林)	<p>1. 目的、内容 研究開発OB人財の登録・活用制度をスタートし、初年度として、産業貢献、社会貢献、国際貢献での有効なOB人財活動に向けた具体的な活動企画推進を行う。</p> <p>2. 委員会構成 委員長：東洋大 総合情報学部長 大場教授 委員：企業委員 4名 学識委員 1名 公的機関委員 3名</p>	委員会	①8/1 ②9/16
			活動	<p>目利きコミュニティ人財交流会：11/2 講演「大田区中小企業の現状と今後の発展に向けて」 大田区産業振興協会 専務理事 山田伸顕氏 〔参加者〕 6名</p> <p>産業貢献：計測・表現法に関する分科会 ①9/5 ②10/18 ③12/05 ④1/25 ⑤3/5予定</p> <p>社会貢献：大学・工専での理工教育・交流 1/21 場所：九州大学 研究 「東芝における研究開発 グローバルトップへの挑戦」 東芝 技術企画室 佐田豊氏 「我が国環境ビジネスのアジア展開に向けて」 三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部 主任研究員 高島由布子氏</p> <p>「企業のビジネスのグローバル化の動向と課題」 研究産業・産業技術振興協会 小林一雄 〔参加者〕 16名</p> <p>1/30 場所：北海学園大学 「デジタルカメラ技術」 リコー 光学ユニットカンパニー 片桐進氏 〔参加者〕 35名</p>
技術交流活動（JK A補助事業）	先導技術交流会 (守谷)	<p>1. 目的、内容 産業界と独法研究機関及び国公立研究機関との連携により、組織の枠を超えたライフイノベーション、グリーンイノベーション分野での横断的研究情報・研究成果の交換・交流を可能にする「場」の実現を目的とする。</p>	先導技術交流委員会	<p>&lt;技術交流会&gt; 9/12 第1回委員会 9/21 講演会「大震災の研究施設への影響と対応について」 10/3 講演会「光産業の動向と最近の技術開発プロジェクト」 10/17 第2回委員会 11/7 講演会「半導体産業のイノベーション ～ ミニマルファブの構築」 11/30 講演会「スマートコミュニティ事業の海外展開について」 12/7 研究所紹介「ナノ材料科学環境拠点（GREEN）の概要説明～文部科学省：ナノテクノロジーを活用した環境技術研究～」 1/16 科学セミナー「次世代バイオ医薬品への挑戦(1)～先端糖鎖技術がもたらす改良型バイオリジクス～」 3/9 講演会「ロボットを用いたバイオ分析、化学合成」</p>
			先進医療技術交流委員会	<p>5/18 第1回委員会、及び講演会「産業技術総合研究所における医療機器研究開発の取り組みについて」 10/11 第2回委員会、及び講演会「外科医が感じた医工連携の課題と将来」 11/18 講演会「小切開・鏡視外科手術の動向と機器開発」 12/14 講演会「3Dヘッドマウントディスプレイ」、「触れる立体テレビを実現するシステム」 2/3 講演会「生体情報モニターの技術革新と高齢化社会での広範な利用の可能性について」</p>

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
技術交流活動（JK A補助事業） つづき	ワークショップ・シンポジウム (小林)	1. 目的、内容 (社)研究産業協会と(財)日本産業技術振興協会との統合を記念して開催する。	統合記念シンポジウム	テーマ「グローバル競争時代の研究開発 ～イノベーションによる我が国産業の再強化～」 日時：10月29日 場所：学会館 挨拶 会長 伊藤 伊藤源嗣氏 来賓挨拶 産業技術総合研究所 副理事長 小野晃氏 基調講演 経済産業省 産業技術環境局 審議官 中西宏典氏 特別講演1 トヨタ自動車 常務役員 奥平総一郎氏 特別講演2 ERMA事務局長 Michel Judkiewicz氏 パネルディスカッション モデレータ 東京大学 教授 橋本和仁氏 パネリスト 日立製作所 中央研究所長 長我部信行氏 住友化学 技術・経営企画室部長、織田佳明氏 元KRI会長 大阪ガス顧問 永田秀昭氏 東洋大学 総合情報学部長 教授 大場善次郎氏 〔参加者〕 134名
		1. 目的、内容 研究開発において多くの業界・企業が共通で抱えている課題等について、斯界の識者からさまざまな視点からイノベーションの創出に向けた取り組みについてご講演をいただき、将来に向けた持続性のあるイノベーション実現に向けた鍵、課題などを議論する。	シンポジウム	東洋大学川越キャンパス開設50周年記念事業 駅伝シンポジウム2 テーマ「日本が生き残るために！part 2」 ～進化するもの創り～ 日時：11月7日 場所：東洋大学 川越キャンパス 開会挨拶 東洋大学 総合情報学部長 大場善次郎氏 「研究産業・産業技術振興協会のご紹介」 研究産業・産業技術振興協会企画交流部長 小林一雄 講演1「建築生産システムの革新を目指して」 清水建設 技術研究所 上席マネージャー 山崎雄介氏 講演2「情報端末のイノベーション加速と環境影響」 HiRAK技術コンサルティング 代表 平倉浩治氏 講演3「日本の産業を支える検査・分析」一見に見えないものを見るー JFEテクノリサーチ 品質保証部 主査・副部長 古主泰子氏 講演4「技術創造立国を支える計測検査機器産業」ーグローバル世界で生き残るためにー 日本電子 代表取締役兼専務執行役員 岩槻正志氏 閉会挨拶 東洋大学 理工学部長 吉田泰彦氏 〔参加者〕 76名
	学生へ出張講義、企業見学 (小林)	1. 目的、内容 理系進学・就職学生の減少の中で、次世代の研究開発人材たる学生等へ研究開発の魅力を伝えるため、現役の企業研究者・管理者等を全国7地区に派遣し、出張講義を行う。また、学生が研究開発現場に触れ、関心を喚起するため、企業等見学会を行う。	出張講義・交流	目利きコミュニティ委員会と共同 1/21 場所：九州大学 「東芝における研究開発 ーグローバルトップへの挑戦」 東芝 技術企画室 佐田豊氏 「我が国環境ビジネスのアジア展開に向けて」 三菱総合研究所 環境・エネルギー研究本部 主任研究員 高島由布子氏 「企業のビジネスのグローバル化の動向と課題」 研究産業・産業技術振興協会 小林一雄 〔参加者〕 16名 1/30 場所：北海学園大学 「デジタルカメラ技術」 リコー 光学ユニットカンパニー 片桐進氏 〔参加者〕 35名

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
（経済産業省受託事業） 東経済産業局	平成23年度 戦略的基盤技術高度化支援事業「CNX冷陰極X線管」特有真空環境の最適化及びX線発生装置の開発 （守谷）	<p>1. 目的、内容 本開発では、X線顕微鏡のX線管の電子線源を、従来の熱フィラメント型熱陰極からCNX冷陰極に変えることで、省エネルギー化し出力変動を抑えるとともに、長寿命化のため冷陰極X線管製造時に、特有の真空環境の維持・最適化技術を開発する。</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関：（独）産業技術総合研究所、（株）サンバック、（株）ライフ技術研究所 統括研究代表、副統括研究代表（研究開発指揮） 統括研究代表：当協会 守谷 哲郎 研究員 副統括研究代表：（株）サンバック 木村 博司、他研究参加者 6名 研究開発検討会（進捗管理） 参加者：研究開発担当者8名、アドバイザー2名（産総研） 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）4名</p>	実施内容	<p>CNX冷陰極X線管を実際のインライン検査装置に搭載するには、その特性を15,000時間以上維持する製品寿命が必要となる。</p> <p>平成23年度は、傾斜機能付セラミック固体絶縁筒を用いた全固体絶縁X線発生装置の試作開発を終了させる。</p> <p>高出力の重負荷対応X線管は陽極熱容量と冷却及び冷陰極への影響除去を両立させる必要があるため、まずシミュレーションによる設計見直しを行い、構造設計へ反映させた。また、陽極熱特性について実験した。さらに、コスト及び量産容易性から、22年度に製作したロウ付け炉の稼働条件最適化を行い、真空内一体ロウ付け技術を完成して、市場投入サンプルを試作する。</p>
			開発担当連絡会	<p>（随時）研究開発打合せ（産総研つくばセンター） （随時）研究進捗状況報告（つくば事務所） 12/2 ライフ技術研究所長岡工場見学（真空内一体成型装置等）</p>
受託事業（経済産業省商務情報政策局）	平成22年度 課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業（補正予算）「手術ナビゲーション用患者・患者部リアルタイム重ね合わせ実三次元表示システムの開発」 （守谷）	<p>1. 目的、内容 本開発では、各種医用画像機器からの三次元データを基に、リアルタイムで患部の三次元像を患者に重ね合わせて表示し、外科手術器具を患部に安全にナビゲーションするシステムを開発する。 —（その際に用いる技術は、両眼立体視ではなく、開発した三次元空間に三次元像を投影するインテグラル・ビデオグラフィーである。本技術で投影されるフルカラー三次元動画は、絶対的位置の再現だけでなく、特殊眼鏡を使用せず実物を見ているが如く、観察可能という特徴を有する。）—</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関： 東京大学大学院情報理工学系研究科 東京大学医学部附属病院 東京女子医科大学、（独）国立成育医療研究センター 総括研究代表、副総括研究代表（研究開発指揮） 総括研究代表：東大 土肥教授 副総括研究代表：東大 正宗准教授、他研究参加者17名 研究開発推進委員会（進捗管理） 委員長：東大 土肥教授、委員：東大病院等より10名 アドバイザー：産総研 鎮西グループリーダー 他4名 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）5名</p>	実施内容	<p>本技術によるナビゲーションシステムを、多くの医療機器の設計・試作を手掛けてきた（株）小野電機製作所を中心に、臨床使用可能なモデルとして開発した。また、臨床上の問題点を抽出するため、試作システムを臨床グループにより検証して、装置のリスクマネージメントを進めた。その場合、これまでの医工連携の共同研究において、本システムに対して最も要求の強い診療科である脳神経外科、口腔外科、胎児外科、整形外科、血管外科、および救急医学の6診療科を対象とし、臨床応用に向けたデータの取得と各科対応の三次元画像医療技術を確立する。</p>
			研究開発推進委員会等	<p>4/12 プロジェクトキックオフ会合 5/10 第1回研究開発推進委員会 6/1 第2回研究開発推進委員会 7/13 試作機設計に関する打合せ 8/1 伴走コンサル打合せ 8/19 試作機操作説明会、及び第3回研究開発推進委員会 9/27 第4回研究開発推進委員会 11/18 緊急に進める必要がある研究開発課題打合せ 11/28 小野電機製作所工場見学 12/7 伴走コンサル「リスクマネージメント」講演 12/9 伴走コンサル「生体モニター開発例」講演 12/9 第5回研究開発推進委員会 1/27 中間検査 2/15 最終報告説明会</p>
広報活動	活動成果発表会 （小林）	当協会の過年度事業の内容を発表し当協会の活動を広くアピールする。	活動成果発表会	<p>平成23年度活動成果発表会 H23.5.20 機械振興会館 B2-1会議室 〔参加者〕51名 〔懇親会参加者〕33名</p>

		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
広報活動 つづき	情報提供 (清水)	協会のから会員へ向けた情報発信	ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>統合により、全面的に見直し、平成22年度報告書及び平成22年度・平成23年度の事業に関する公開情報をそれぞれのページに掲載した。</li> <li>会員専用ページに、平成22年度成果報告書の全文や各イベントの資料を掲載した。</li> <li>各委員会委員専用ページに、委員会資料等を掲載した。</li> <li>これらは随時更新していく。</li> </ul>
			JRIAニュース	電子メールによる会員、一般向け広報（原則月例）
			情報提供	産業技術政策関係情報の提供（経産省／NEDO／JST等の情報）
	C T O交流会 (小林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業CTOクラス*の交流機会 （*：協会の理事会社では理事クラス、理事会社以外の会社では協会にお届けいただいた会員代表者クラス、あるいは研究所長など、研究開発の管理責任者の方々）</li> <li>2ヶ月に1回開催（原則第3木曜日）</li> <li>8：00開催 講演と朝食会形式</li> </ul>	7/21 第20回	「ナノテクノロジー研究の現状と展望」 東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻 教授 石原直氏 〔参加者〕 10名
			8/23 第21回	「世界にはばたけ モノづくりの心」 (株)日立製作所 相談役 庄山悦彦氏 〔参加者〕 14名
			10/13 第22回	「中国の12・5計画と国家知的財産戦略」 協和特許法律事務所 弁理士 黒瀬雅志氏 〔参加者〕 11名
			10/13 第23回 (研究所訪問)	「ロレアル研究所の概要と日本における研究所の役割」 日本ロレアル(株) 副社長 リサーチ&イノベーションセンター所長 ステファン オルティス氏 〔参加者〕 9名
			12/15 第24回	「グローバル化の中の我が国製造業の最近の動向 -空洞化の現状と課題-」 経済産業省 大臣官房審議官 川上景一氏 〔参加者〕 9名
			2/2 第25回	「総合科学技術会議改組と日本の科学技術政策の方向について」 科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター長 吉川弘之氏 〔参加者〕 17名
			4/20 第37回	「省エネルギー技術戦略2011について」 研究産業協会 事務局長付 清水淳 〔参加者〕 17名
	研究産業技術 懇談会 (小林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発あるいは研究開発の実用化などに関係する部長、課長クラスの方々の交流機会（官庁、大学の方々も含め。）</li> <li>月1回開催(原則第3水曜日) 16：30開催 講演30分、質疑応答・議論45分</li> <li>提供いただいた話題を中心に議論・懇談。 適宜、軽食などで気軽に。</li> </ul>	5/31 第38回	「戦略的な国際標準化の推進」 経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課 課長補佐 田場盛裕氏 〔参加者〕 13名
			7/19 第39回	「中国国家プロジェクト 天津エコシティ構想について」 (株)日本総合研究所 執行役員 創発戦略センター所長 井熊均氏 〔参加者〕 22名
			9/21 第40回	「大震災後の我が国産業競争力に関する課題と対応（新たな国家プロジェクト制度の創設についての提言）」 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課長 福島洋氏 〔参加者〕 7名
			10/19 第41回	「アジア新興国における日本企業の研究開発 -中国、タイを中心として-」 横浜国立大学大学院環境情報研究院 技術開発学 教授 近藤正幸氏 〔参加者〕 9名
12/13 第42回			「原子力発電の廃炉に向けた中長期研究課題と原子力政策の近況」 内閣府 原子力政策担当室 企画官 吉野潤氏 〔参加者〕 15名	
3/7 第43回 (予定)			「ニコンデジタルカメラの発展と普及および今後の姿」 (株)ニコン フェロー 後藤哲朗氏	



		目的・体制等	平成23年度活動の進捗状況（予定を含む）	
会 務	総会 （清水）	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定する。 2. 体制と出席者 会長・副会長・専務理事、会員代表者、経済産業省	第20回通常総会 H23.5.25 10:50～11:30 KKRホテル東京（出席61名）	
	理事会 （清水）	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定する。 2. 体制と出席者 理事・監事	第75回 H23.5.25 10:00～10:40 KKRホテル東京（出席 理事36名、監事2名） 第76回 H23.5.25 15:30～16:20 KKRホテル東京（出席 理事33名、監事2名） 第77回 H23.9.13 15:00～16:00 KKRホテル東京（出席 理事33名、監事2名） 第78回 H24.3.08 15:30～16:30 KKRホテル東京	
	運営委員会 （清水）	1. 目的、内容 ・協会の運営、事業の推進等の議論を行うと共に入会予備審査を実施する。 ・原則として理事会前に年間3～4回開催する。 ・委員会による企画立案機能を強化するため、運営委員会で企画・評価を行う。 2. 体制と出席者 理事会社及び監事会社から選出された委員で構成 運営委員 18名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 水野部長	第82回 H23.5.13 15:00～17:15 協会会議室 第83回 H23.8.31 15:00～17:15 協会会議室 第84回 H23.12.15 15:00～17:15 協会会議室 第85回 H24.2.21 15:00～17:15 協会会議室	
	企画・評価 ワーキンググ ループ （清水）	1. 目的、内容 ・会員各社の要望に応じて活動を行っていくために、協会の事業に関する企画及び評価機能の強化の目的で設置。 ・原則として運営委員会前に年間3～4回開催を予定 ・運営委員に替わり企画の討議を行う、また、評価では外部識者を入れた討議を行う。 2. 体制と出席者 運営委員会の中核的メンバーと外部有識者による評価委員で構成 委員 6名 委員長：(株)日立製作所 研究開発本部 市橋技術管理部長	第1回 H23.4.27 15:00-17:20 協会会議室	
統合事務 （清水）	1. 目的、内容 旧（社）研究産業協会と旧（財）日本産業技術振興協会との統合合併により、新団体として（社）研究産業・産業技術振興協会を設立。 2. 体制 旧技振協の賛助会員46社中32社（研究産業協会会員13社を除く。）を新協会の賛助会員として迎える。 旧技振協の理事・評議員の方の所属する22団体を特別賛助会員として迎える。 旧技振協の顧問の3名の方を、新協会の顧問として迎える。 つくば事務所を開設。	H23.6 旧技振協の保管書類の引継。（つくば事務所、ヤマタネ倉庫へ保管） H23.6.3 つくば事務所開設 H23.6.20 （社）研究産業・産業技術振興協会は吸収合併の登記、 旧（財）技振協は解散の登記。 H23.6.20 旧（財）技振協の残余資産約2億円の受け入れ。 H23.6.20 新団体の賛助会員、特別賛助会員への移行案内の発出。 H23.6.20 新団体の顧問への就任依頼状、委嘱状発行。 H23.7.7 経産省への合併登記完了の届出 H23.8.5 新団体監事による旧技振協H23年度決算書の監査。		
そ の 他	技術研究組合 運営懇談会事 務局 （松田）	技術研究組合運営懇談会の事務局業務の受託 会員 20団体 幹事 6名 代表幹事： 石油コンビナート高度統合運営(技) 小島専務 (技) 超先端電子技術開発機構 稲垣専務	幹事会 ①4/11、②5/23、③6/29、④7/11、⑤9/20、⑥11/25、⑦12/12、⑧2/7、 ⑨3/14 定例会 ①4/11、②5/23、③6/24、④9/20、⑤11/10（見学会）、⑥12/12、⑦1/18	